

《病院理念》信頼される全人的医療

《基本方針》

- 患者さんが中心の安心安全な医療を提供します
- 患者さんと医療従事者のコミュニケーションを大切にします
- 個人情報の保護に努めます
- 専門性と総合性をもつ診療を行います
- 地域に開かれた病院として貢献します
- 全人的医療が行える医療人を育てます
- 地域の特性を活かした研究を推進します



平成26年度の北部医療センターの 取り組みについて

京都府立医科大学附属北部医療センターとしての2年目を迎えます。

「信頼される全人的医療」を基本理念として、1) 患者さんが中心の安心安全な医療の提供、2) 患者さんと医療従事者のコミュニケーションの重視、3) 個人情報の保護、4) 専門性と総合性をもつ診療、5) 地域に開かれた病院、6) 全人的医療が行える医療人の

育成、7) 地域の特性を活かした研究の推進を基本方針として掲げ、職員全員が一丸となって取り組んで参りました。この間、もの忘れ外来・小児外科外来・小児発達外来などの開設、女性専用・小児病棟の開設、総合診療科の新設、府民公開講座4回、救急診療機能の拡充、近隣の医療機関への診療応援、病院間協定の締結などを行って参りました。平成26年3月1日から「認知症疾患医療センター(地域型)」に指定され、認知症への取り組みを本格的に始めております。4月1日からは、北部地域で初めてとなる心臓リハビリテーションの開始、救急ワークステーションの本格運用、周産期医療のより一層の充実などに取り組みます。今年度も府民公開講座を4回予定しておりますので、昨年度に引き続き多くの皆様のご参加をお待ちしております。本館の外壁を塗り替え少しまりきれいになりましたが、施設全体の老朽化に伴う様々な課題もあり、住民の皆様にはご不便をおかけする点多々あるかと存じます。今後も専門性と総合性を備えた医療サービスを提供させていただき、皆様に愛される地域中核病院として更なる飛躍を目指したいと考えております。

今年度もご支援、ご指導をよろしくお願い申し上げます。

平成26年4月1日 京都府立医科大学附属北部医療センター病院長 中川正法

- 【第4号の内容】
- 1 ページ ● 病院長あいさつ…中川正法病院長
 - 2 ページ ● 医療機器共同利用等に関する協定締結 ● 救急室供用開始
 - 3 ページ ● 看護部長就任の挨拶…橋元春美看護部長 ● 公開講座のお知らせ
 - 職員募集 ● 一〇レシビ
 - 4 ページ ● 診察室「放射線科」…竹内義人副病院長
 - 診療科紹介「消化器内科」…玄泰行医長
 - 5 ページ ● 地域医療連携室「かけはし」
 - 6 ページ ● 外来各科診察担当医表 ● 医師異動情報



〒629-2261 京都府与謝郡与謝野町字山481
電話/FAX 0772-46-3371 (代表)
<http://nmc.kpu-m.ac.jp/>

「全人的医療人材育成・研究センター」
北部地域医療人材育成センター

●北部公的病院における研修・研究用医療機器の 共同利用に関する協定を締結

府北部地域における若手医師等の育成・定着を図るため、研修・研究の機会の確保による人材育成の仕組みづくりが必要です。

このため、府立医科大学に「全人的医療人材育成・研究センター（センター長 吉川敏一 学長）」を設置し、継続的な医療人材育成システムを構築しました。

今後、北部医療センターを核とした北部公的10病院が、平成25年度に整備された研修・研究機器を活用しながら、若手医師等を対象とした合同研修やカンファレンスを実施するとともに、研究の機会確保について連携を深めていきます。



北部公的10病院

【丹後医療圏】

京都府立医科大学附属北部医療センター〔心臓運動負荷モニタリングシステム〕、京丹後市立久美浜病院、京丹後市立弥栄病院

【中丹医療圏】

独立行政法人国立病院機構舞鶴医療センター〔脳波測定器〕、国家公務員共済組合連合会舞鶴共済病院、舞鶴赤十字病院、市立舞鶴市民病院、国民健康保険新大江病院、市立福知山市民病院〔超音波診断装置〕、綾部市立病院〔眼科手術用顕微鏡〕

※〔整備された研修・研究機器〕

救急室使用開始

救急室の改修工事が終わり、平成26年3月19日から救急室の使用を開始しました。

改修により、面積は以前の約2倍となり、十分な広さをもった救急処置スペース、個室化した診察室と観察室、患者さん待合室を整備。広くなった救急処置スペースは、患者さんのプライバシーに十分配慮するとともに、スタッフ動線や各種医療機器の配置を考慮したものとなっています。診察室、観察室はそれぞれ2室、うち1室は診察室と感染用低圧個室（観察室）を兼ねています。



↑救急処置スペース



↑救急時待合室



看護部長就任の挨拶

橋元 春美 副病院長兼看護部長



4月1日から副病院長兼看護部長に就任いたしました橋元春美と申します。私は20年前にスタッフとして勤務させていただいており、北部医療センターの皆様には大変お世話になりました。再びこのような機会をいただきましてこの風光明媚な地に深いご縁を感じております。

北部医療センターは、「信頼される全人的医療」という崇高な理念のもと、全職員が信頼関係を築き北部地域における医療の質の向上に取り組んでいます。私も微力ながら

地域に愛される病院

職員が健やかな病院

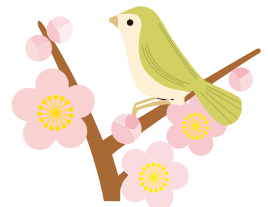
を目指して精進したいと考えております。

どうぞよろしくお願いいたします。



府民公開講座について

昨年ご好評をいただきました府民公開講座につきましては、今年も6月、7月、9月、10月の第4日曜日午後開催する予定です。詳しくは、チラシ等でお知らせしますので、ご期待ください。



職員募集中！ 看護師・薬剤師・作業療法士

当センターでは現在、期限付職員(看護師、作業療法士)、非常勤嘱託職員(薬剤師)、臨時職員(看護師)を募集しています。条件等についてはお気軽にお問い合わせください。

【お問い合わせ先】 京都府立医科大学附属北部医療センター 庶務課
☎0772-46-3371 (代表)



一ロレシピ 「ばら寿司」

★今回は当病院栄養管理課のばら寿司を紹介します。(^o^)

【寿司飯の割合】

米一升(1.5kg)に対して → 砂糖300g 塩30g 酢200g

【その他の材料】

鯖味付缶(大280g)、人参、干し椎茸、薄焼き卵、絹さや、紅しょうが

【作り方】

1. フライパンに汁気をきった鯖缶と砂糖(好みの分量)を入れ、混ぜながら火にかけて水分をとばします。(鯖のぞぼろ)
2. 人参150gを薄味で炊き、汁気を切って冷ましておきます。
3. 冷めたら炊きあがったご飯に酢をあわせて人参も入れて混ぜます。
4. あら熱が取れたら器に盛りつけて、上から鯖のぞぼろ①をのせます。
5. 砂糖と醤油で甘辛く煮た椎茸、薄焼き玉子(千切り)と、色良く茹でた絹さや(千切り)と、紅しょうが(千切り)を上記のせて出来上がり。



栄養管理課



診察室

「からだにやさしいIVR」 放射線科 副病院長 竹内 義人

たけうち よしと



放射線科の仕事で、針やカテーテルを用いたインターベンショナル・ラジオロジー（IVR）という治療を紹介します。バリウムを使って胃の中の様子を透視するように、レントゲン映像で体内を観察して、体内に挿入した医療機器を通して標的病変を治療するものです（図）。さらに近年、体内透視が高精度化され、機器の小型化によって適応範囲が増えました。IVRを使えば、身体を切らずに外科のような高い効果を得ることができます。標準療法がなく、つらい状況を手早く解決する手段としてIVRしかないものもありますが、健康状態がすぐれず病気が進んでいるために外科手術が行いにくい場合にも使用されます。

IVRの対象は特定の臓器に依りませんが、適用の判断には専門的な知識が必要です。特に透視画像、

すなわちIVRの「眼」はよくなくてはなりません。今春、当院にはIVR専用のエコー装置とCT透視が設置されました。レントゲン透視では見えない病気やカテーテルの様子を1mm刻み、あるいは0.1秒単位で観察できるようになり、体幹部のあらゆる部位が治療可能となりました。機械だけではなく、使い手であるIVR医も今春増員されました。

名店のレストランには裏メニューがつきもので、それこそが求められるべきものです（表）。病院も同じで、特に高齢者人口の多い丹後医療圏では「からだにやさしい治療」が求められています。各科の診療支援や直接相談という形で診療させていただきます。どうぞ放射線科IVR担当者までお問い合わせください。

図. CT下の針生検



背中から針を刺し入れて、体の奥のがん（↑）を採取している

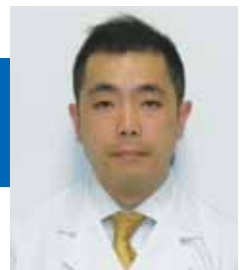
表. IVRのいろいろ

つらい状況を手早く解決する手段としてIVRしかないもの
難治性腹水のシャント療法、骨転移のセメント療法、管腔狭窄症のステント療法、がん性腹痛の内臓神経ブロック・・・
外科手術を行いにくい場合に用いられるIVR
経皮的針生検、がん治療（血管塞栓、動注、焼灼）、出血性病変の治療（動脈瘤、血管奇形、救急出血）、排膿・排液（ドレナージ）、血栓除去、血管形成、体内異物の回収・・・

診療科紹介

一 消化器内科

げん やす ゆき
医長 玄 泰 行



消化器とは食物が通過する臓器（食道・胃・十二指腸・小腸・大腸）と食物の消化吸収に関する臓器（肝臓・胆嚢・膵臓）のことで、消化器内科ではこれらの臓器にできる病気の精密検査及び内科的治療を専門的に行っています。消化器疾患の中には、慢性胃炎や慢性肝炎などの慢性疾患や各臓器に発生する癌など様々な疾患があります。これらの病気は

症状が出てから見つかった場合、進行している状態のことも多く、症状がない時から検診などで検査を受けることが重要です。

慢性疾患は癌と密接なつながりがあります。たとえば、慢性胃炎は胃の中にピロリ菌という細菌が長年感染することが原因であり、胃癌の主な原因です。ピロリ菌は



保険治療で除菌をすることができます。除菌を行うと、胃癌になる確率が減ります。胃カメラを受けて、慢性胃炎の診断や胃癌の早期発見につとめることが大切です。早期胃癌の内視鏡治療は進歩しており、当院では年間平均70例の胃癌の内視鏡治療を行い、良好な成績をあげています。

また、生活習慣も癌と関係があります。慢性肝炎から肝臓癌が出てきますが、以前と比べて脂肪肝による慢性肝炎・肝臓癌が増加しています。血液検査や腹部超音波検査を行うことで脂肪肝について検査をすることができます。

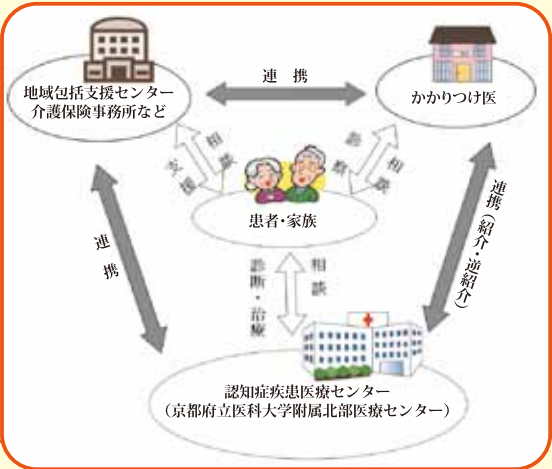
当院には学会専門医も多く、消化器検査は検診から精密検査・治療まで、ほとんどすべてを安定して行うことが可能です。消化器疾患でお困りの方、検査希望の方は受診するようにしてください。

地域医療連携室「かけはし」

認知症疾患医療センターを開設しました

当院は本年3月1日に京都府から指定を受け認知症疾患医療センターを開設しました。このセンターは、認知症の方が住み慣れた地域で、安心して生活を継続していけるように、地域の保健医療・介護関係機関と連携を図りながら支援することを目的としています。

- 1 認知症の鑑別診断、周辺症状や合併症の治療、専門医療相談等を行います。
- 2 保健医療・介護関係者の研修等を行い、認知症疾患の保健医療水準や、対応力の向上を図ります。



受診のご案内

◎認知症の診察

精神科 又は もの忘れ外来 (神経内科)

◎初回の診察

精神科：月曜日～金曜日午前

もの忘れ外来：第1・第3水曜日午後

(かかりつけ医からの予約が必要)

認知症に関する相談・お問い合わせ

認知症疾患医療センター

専用電話 0772-46-4701

受付時間 月曜日～金曜日 午前8時30分～午後5時

相談担当 精神保健福祉士・保健師



丹後地域認知症ネットワーク研修会を開催しました

去る3月19日に野田川わーくぱるで認知症疾患医療センターの披露を兼ねて認知症の研修会を開催しました。京都地域包括ケア推進機構・丹後保健所との共催によるもので、保健医療・介護関係者139名の参加をいただきました。

研修会の初めに当院中川正法病院長から認知症疾患医療センターの機能、活用方法等について説明しました。

さらに、パネルディスカッション「地域連携をすすめるために」では、日頃、認知症の方や家族の支援に当たられている京丹後市立弥栄病院の安原正博院長（もの忘れ外来）や山根医院（宮津市）の山根行雄院長、丹後大宮ゆう薬局の船戸一晴薬剤師、京丹後市地域包括支援センターの竹内歩己主任保健師から地域での認知症対応の実情を報告いただきました。高齢化の著しい丹後地域では既に認知症への対応は進んできていますが、今後、認知症の患者本人や家族により優しい地域像を関係者で共有し、それに向けて多職種協働で当たっていくことを確認しました。今後も関係機関の協力を得て事例検討など関係者の研修会を重ねていく予定です。



外来各科診察担当医表 (平成26年4月1日)

診察室	診療科	月	火	水	木	金
11	総合診療科	横井大祐 助教 (副医長)	(1,3,5週) 横井大祐 助教 (副医長) (2,4週) 高田博輝 助教 (医長)	(1,3,5週) 時田和彦 准教授 (副病院長) (2週) 石野秀岳 講師 (医長) (4週) 担当医	時田和彦 准教授 (副病院長)	石野秀岳 講師 (医長)
12	呼吸器内科	大月亮三 助教 (医長)	大月亮三 助教 (医長)	大月亮三 助教 (医長)		大月亮三 助教 (医長)
13	消化器内科	玄 泰行 助教 (医長)	福井勇人 助教 (医長)	西村 健 助教 (副医長)	福居顕文 助教 (副医長)	稲田 裕 助教 (副医長)
14	循環器内科	谷口琢也 助教 (副医長)	宮川浩太郎 助教 (副医長)	高田博輝 助教 (医長)	福居顕介 助教 (副医長)	入江大介 助教 (副医長)
15	神経内科	山口達之 助教 (医長)		(第1,3 午後) 中川正法 教授 (病院長) (もの忘れ外来) (予約)	山口達之 助教 (医長)	中川正法 教授 (病院長)
26	精神科	西澤 晋 助教 (副医長)	上村 宏 准教授 (医長)	上村 宏 准教授 (医長)	上村 宏 准教授 (医長)	西澤 晋 助教 (副医長)
23	小児科	小坂喜太郎 准教授 (医長)	吉田秀樹 助教 (副医長)	(1,3,5週) 小坂喜太郎 准教授 (医長) (2,4週) 小川 弘 講師 (医長)	1診 諸戸雅治 助教 (副医長) 2診 (第1,3,5年前) (予約) 柴原康通 講師	小川 弘 講師 (医長)
18	外科	1診 中村憲司 講師 (乳腺・新患) (医長)	石本武史 助教 (副医長)	當麻敦史 講師 (医長)	中村憲司 講師 (医長)	落合登志哉 准教授 (副病院長)
		2診 満田雅人 助教 (医長)		本宮久之 助教 (医長)	渡邊信之 助教 (副医長)	(第1) 増田慎介 医師 (第2,4) 常盤和明 特任教授 水野健太郎 助教 (副医長)
22	整形外科	城戸優充 助教 (副医長)	吉岡直樹 助教 (副医長)	森崎真介 助教 (副医長)	吉田隆司 講師 (医長)	水野健太郎 助教 (副医長)
17	脳神経外科		山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	山中龍也 教授 (隔週) 関本達之 特任教授 (隔週)	谷山市太 医師	井上靖夫 医師
19	眼科	1診 奥島健太郎 助教 (副医長)	糸井素啓 助教 (医長)	小嶋健太郎 助教 (医長)	小嶋健太郎 助教 (医長)	奥島健太郎 助教 (副医長)
		2診 大槻陽平 助教 (医長)		大槻陽平 助教 (医長)	糸井素啓 助教 (医長)	
20	産婦人科	辻 哲朗 助教 (医長)	沖村浩之 助教 (医長)	片岡 恒 助教 (副医長)	(1,3,5週) 片岡 恒 助教 (副医長) (2,4週) 沖村浩之 助教 (医長)	野口敏史 准教授 (副病院長)
24	泌尿器科	堀田俊介 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)	堀田俊介 助教 (医長)	問山大輔 助教 (医長)
25	耳鼻咽喉科	1診 信原健二 助教 (医長)	信原健二 助教 (医長)	二之湯 弦 医師	信原健二 助教 (医長)	齋藤敦志 助教 (副医長)
		2診	齋藤敦志 助教 (副医長)		齋藤敦志 助教 (副医長)	
21	ペインクリニック		(第1,3) 伊吹京秀 講師			
16	皮膚科	小森敏史 助教 (医長)	小森敏史 助教 (医長)	小森敏史 助教 (医長)		小森敏史 助教 (医長)

●受付時間 ●再診(予約のある方) 午前8時から受付開始 ●初診・再診(予約のない方) 午前8時30分~11時
●閉診日 土・日曜日、祝日及び年末年始(12月29日から1月3日) 【急患は、時間外でも診察】

医師異動情報									
診療科名	転出(平成26年1月31日)		転入(平成26年2月1日)		診療科名	転出(平成26年1月31日)		転入(平成26年2月1日)	
外科	—		助教(併任) イシハラ シュンタ (綾部市立病院勤務) 石原 駿太		麻酔科	医師 シマモト サキ 嶋本 早希		医師 タケムラ ヒトミ 竹村 瞳	
診療科名	転出(平成26年3月31日)		転入(平成26年4月1日)		診療科名	転出(平成26年3月31日)		転入(平成26年4月1日)	
総合診療科	—		助教(医長) ヤマガチ タツユキ (神経内科医長兼務) 山口 達之 助教(副医長) ヨコイ 大祐 横井 大祐		整形外科	助教(副医長) ホソイ クニヒコ 細井 邦彦		助教(副医長) ヨシオカ ナオキ 吉岡 直樹	
消化器内科	助教(医長) ジョウ マサヤス 城 正泰	助教(副医長) ニシムラ タケシ 西村 健	—			—		助教(併任) オカダ ナオヤ (綾部市立病院勤務) 岡田 直也	
循環器内科	助教(副医長) カワヒト ヒロユキ 川人 浩之	助教(副医長) ミヤガワ ヨウタロウ 宮川浩太郎	—			—		助教(併任) カナムラ ヒトシ (福知山市民病院勤務) 金村 斉	
	助教(副医長) キシダ ソウ 岸田 聡	助教(副医長) フクイ ケンスケ 福居 顕介	—			助教(併任) カナムラ ヒトシ (久美浜病院勤務) 金村 斉		助教(併任) キダ ヨシカズ (久美浜病院勤務) 木田 圭重	
外科	助教(副医長) キシタ ソウ 木下 英吾	助教(副医長) イリ エ 入江 大介	—		助教(副医長) ニワ マサヨ 丹羽 匡世		助教(副医長) オクシマ ケンタロウ 奥島健太郎		
	助教(医師) フジタ シンウヘイ 藤田 周平	助教(医師) ホンノウ ヒサユキ 本宮 久之	—		助教(副医長) ミズノ レンタロウ 水野連太郎		助教(医師) オオツキ ヨウヘイ 大槻 陽平		
	助教(医師) オギノ シンペイ 荻野 真平	助教(副医長) ワタナベ ノブユキ 渡邊 信之	—		助教(医長) イマイ マコト 今井 慎		助教(医長) コモリ サトシ 小森 敏史		
	—	助教(医師) ミツダ マサト 満田 雅人	—		—		助教(併任) オクサワ ヤスタロウ (舞鶴医療センター勤務) 奥沢康太郎		
—	—	講師(併任) シモムラ マサノリ (綾部市立病院勤務) 下村 雅律		学外研究 (平成26年4月1日~)		神経内科		助教(医長) ニワ フミトシ 丹羽 文俊	

【発行】京都府立医科大学附属北部医療センター (与謝の海病院) 【問合せ先】庶務課
TEL/FAX 0772-46-3371(代表) ホームページ <http://nmc.kpu-m.ac.jp/>
ホームページから“お見舞メール”サービスがご利用いただけます。